【参考資料6】新設Ｃチーム（濱崎委員）提供資料

LGBTQ+の⼈が差別されることなく、安⼼して利⽤できるトイレ空間を知るためのポイント

9⽉13⽇（⽔）⼤阪市交通バリアフリー基本構想推進協議会 準備資料

駅舎等のトイレの建築構造

1.多機能トイレが、男⼥別トイレから独⽴している。ピクトグラムも含め性別を問わない。

男女別に分かれた空間を通らずに、外空間から直接入ることができる。使いやすい。

図・写真：⼤阪メトロ新⼤阪駅改札内、⼼斎橋パルコ5階のトイレ、ピクトグラム

2.多機能トイレが、男⼥別トイレから独⽴している。しかし、ピクトグラムが性別を問う。

外空間から直接入ることができるが、ピクトグラムは男女別であり、使いにくい。

ピクトグラムをはじめとする男女別のデザインを性別を問わないデザインに変更することで使いやすくなる。

写真：ピクトグラムが性別を問うトイレ

3.多機能トイレが、男⼥別トイレの出⼊⼝にある。

短い距離ではあるものの男女別に分かれた出入口を必ず通るため、使いにくい。

男女別に分かれた出入口を外空間から直接入ることができるようにリフォームすることで使いやすくなる。

図・写真：男女別トイレの出入口にある多機能トイレ

4.多機能トイレが、男⼥別トイレの奥にある。

男女別に分かれた空間を必ず通るため、使いにくい。

多機能トイレの位置を手前に移動させるなど大規模な変更が必要。 多機能トイレの位置を⼿前に移動させるなど⼤規模な変更が必要。LGBTQ+だけでなく障害者も使いやすくなる。

図：多機能トイレの位置が男女別トイレの奥にあるトイレ